



近世說美少年錄

四編五



~ 13
3567
20



門 13
號 3567
卷 20

新編 石童子訓卷之二上冊

東都 曲亭主人人口授編



陰德陽報如來極道
積善天感落葉其實賜ふ

再說十二屋九四郎（そのいりあはらうりちり）當日杜四郎（このちとるり）成勝（なる）絶て久（たうい）治比（ちひ）の信（のち）弘元（ひろの）風濕病（かぜいび）臥（ふし）の（の）且（かつ）教訓（けうくん）の言（の）の顛末（てんまつ）又贈（また）れ（る）金子（かねこ）の支音（しおん）就基綱（すゑきこう）の上（の）上（の）言（の）詳（あ）不（な）信（の）示（し）弘元（ひろの）の授（の）一書（ひと）と取出（と）て遞與（た）ま（る）杜四郎（この）の今始（いま）て知（し）る父（ちち）の疾病（しやうびやう）痛（いた）母（はは）の逝去（しよき）大兄（だい）與元（よ）親子（おやこ）の早折（はや）折（せ）支（し）母（はは）の胸（むね）浚（すす）れて漫（まん）小涙（こ）の進（すす）む（る）覺（お）見（み）其（の）書（の）と屢（しばしば）美（み）戴（たい）て歎息（たんそく）あ（ら）且（かつ）のやう（う）思（おも）ひ（た）治比（ちひ）も不幸（ふこう）か（ら）の（の）加（か）る（る）ん（と）斯（ごと）の（の）め（め）め（め）て脚言（けう）の（の）似（に）た（る）も俺薄命（おれ）の致（いた）し（た）所（の）缺（けつ）彭（へい）年（ねん）や（や）と實母（じつ）力（りき）自（みづか）ら（ら）喪（な）ひ（た）る（る）幾程（いく）も（も）外祖（がい）母（ぼ）と（と）去（さ）て（て）今（いま）の（の）安（あ）熱（ねつ）を（を）親（おや）弟（てい）兄（けい）の（の）命（いのち）日（ひ）々（々）と（と）の（の）

石童子訓卷之二

文英堂上藏

朝田 大學 圖書館
34.6.3 雙
藏 書

思ひ大兄の命長かき況や大人の疾病臥ぬぬと云くから小廻る身と死の
 縦去白の幾百里雲と水と隔るとも一普茶の舟便り求む。瞬間小彼御許へ参り拜
 見せぬもあは後悔多思ふも何とぞ及ん然らぬか。御教訓の上里から今一
 介の功もく。那里へ参りか。悲しきと聲立て泣ぬ位に増え。孝子の心思ひ
 汲九四郎さこそ慰め。其御歎の理りから。大人の欠安の大病るね。療薬必経
 験あり。竟る瘥るる人路費の金も賜りたる。其毛の權且思ひ復して未だ
 り。東の方の武者修めぬ。大人の教の情る。其後見参安か。とのふ
 乙藝も云と詞を添て諫れ。四郎の僅小點頭て。現小行由。従由親の教。小従
 ふ。孝子の道とのれん。這一通り俺兄の代筆。大人の賜書と兼。今見
 参の心地をまる。そく。又其一書と載て封皮を折ち。あは折る。理然
 と。外画より這方を投て來ぬ者あり。こ見れば一個の老女。年齢六十六近く

袋腰衣己の時。夏衣ならぬ装の貧から。打扮せ。繻子の前帯裳
 短多。副帯さ。精悍。後方吊せ。繻子の轎夫兩名。従ふ。十三屋の店前へ來
 け。暖簾と瞻仰見て。這里へけ。と單領く。老女。莞余。小揖讓。卒介。問は
 り。九四郎。主。宿所。在。ま。と。四郎。見。父。の。書。を。開。儘。懐。夾。せ
 急。身。を。起。り。避。て。奥。へ。退。り。け。當。下。乙。藝。の。端。近。く。件。の。老。女。を。立。迎。て。那。里。上。り
 欲。知。る。ゆ。れ。と。訪。せ。九。四。郎。の。西。旅。宿。の。日。數。歴。て。今。日。か。ら。東。之。宿。所。在。の。柳。の。御
 用。や。の。と。問。復。さ。れ。嬉。や。る。饒。ゆ。と。徐。々。小。草。履。と。其。里。小。脱。措。て。赤。登。れ。九。四。郎
 も。訝。り。ま。す。膝。を。找。めて。訪。せ。九。四。郎。の。屋。主。人。十。三。屋。九。四。郎。の。咱。等。小。を。の。れ。什。麼。那。里
 より。來。り。ま。す。と。訝。り。問。へ。點頭。て。ま。面。善。む。ゆ。り。ぬ。地。御。々。あ。ら。ゆ。か
 たく。思。れ。奴。家。の。旦。裏。小。這。御。宿。所。在。の。と。ゆ。や。大。和。の。旅。客。未。朱。之。小。由。縁。あ。る。
 上。市。る。落。葉。小。ゆ。り。と。名。告。小。敬。驚。く。九。四。郎。乙。藝。思。ひ。か。け。る。開。い。よ。く。を。其。里。の。ま

下本端近也。御話説と所信の宜しからず。且這方へと右ひざり。上坐へ請居り。二枚
 折る小屏風と建て片象る客儲へ二枚の店舖の火般する。真鍮鑿鑿拵
 試て温甘茶汲合る。蒲茶碗茶托尋てうち載て卒とむらふ。唐紙が受敷たり
 備へ置て。原來御身の九四郎主の御對偶の二枚の刀自れとひきり。御身の
 程多し。二枚の即奴家へは。幾の程多し。知られん故。と訝れり。九四郎も
 俱へおさう。酒家の今朝旅より還ると。人徳の御身の。支彼朱刀。祢と幾番
 救ひぬり。慈愛良善及び。今と思ひの。今日俺家へ来ませえとの。神る。ぬ
 身の知らざり。と。い。落葉の。又點頭て。開の。其。該。で。ゆ。か。奴。家。へ。と。這。頭。ま。出。て
 來。さ。う。思。ひ。さ。り。一。小。近。曾。御。身。の。宿。ま。ぬ。い。る。朱。之。入。の。俺。女。婿。有。る。さ。う。い。ふ。さ。う
 浮薄の本性。そと知らざる。ふあらねども。已に。情由あり。當春。春東西と。買せん。と。
 京師の。遺。志。一。小。夏。蘭。る。ま。か。へ。る。遊。真。の。癖。又。起。り。て。那。金。子。と。も。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。

渡ひやあつと。猜し。の。と。大。和。の。家。の。概。た。し。と。ま。う。ち。歡。び。て。の。を。存。け。り。程。不
 い。日。浪。速。の。陣。館。より。御。使。と。下。さ。れ。て。猛。可。奴。家。と。召。せ。ぬ。思。ひ。け。る。と。さ。る。ら。ち
 敬馬。た。り。養。る。朱。之。入。の。二。毛。之。圍。守。も。告。げ。れ。ん。守。り。も。亦。御。下。知。あ。れ。い。等。一。等。あ
 る。時。誼。の。ゆ。り。留。守。の。故。老。隣。人。の。老。實。る。御。身。に。在。ら。せ。て。其。次。は。日。の。早。日。村。長
 刀。祢。俱。せ。ら。れ。て。上。市。の。家。と。立。ち。上。り。一。日。二。日。と。旅。宿。を。も。つ。炎。暑。お。堪。ぬ。今。日。午。の。時
 候。俱。浪。速。お。ま。よ。け。れ。船。て。陣。館。へ。参。上。り。ま。し。局。の内。へ。召。よ。せ。ら。れ。て。頭。の。殿。御
 出。坐。在。り。有。司。讀。み。せ。て。せ。ぬ。朱。之。入。の。越。度。の。條。々。其。顛。末。を。創。て。知。り。ぬ。朱。之。入。の
 這。十。三。屋。を。宿。し。て。在。り。ま。し。今。様。と。強。喚。做。る。娼。妓。の。自。殺。お。支。起。り。も。那。身。の
 ち。宿。の。内。室。へ。二。藝。刀。自。支。乾。兒。達。兩。三。名。敷。系。累。せ。ら。れ。て。久。く。獄。舎。に。敷。系。れ。り。不
 九四郎。主。の。舍。弟。る。勇。少。年。の。禪。死。せ。て。鐵。屑。と。強。引。騙。賊。の。子。下。の。夜。盜。と。兩。名。を。捕
 捕。捕。の。ゆ。か。其。強。盜。卒。の。招。了。せ。今。様。が。自。殺。も。知。ら。れ。又。朱。之。入。も。九。四。郎。主。も。

鐵屑がまゝ當るらぬ證も其里小達一火頭の御疑情解て刀自と兩個の乾兒達の
 今朝共侶小救小あて宿所小還りあひの開中朱之次ハ舊惡更々あつるまで信
 時既小少々か更小罪と被りて大和の返され其二百鞭せ東へ追放せらるる
 まて其條々小備るる有司達讀果る時頭の殿宣ふ事落番係が惡善る俺
 間謀見とぞ豫見小知られ小口せり別美小あはる量朱之次ハ盤纏
 ありと九四郎小預けと百九十五金の少朱之次ハ有財るは小金と唐
 布と買せんも朱之次ハ通與る金子る故小没官せ小返取する但一其金の
 故二百兩とける五兩ハ朱之次ハ路次の儀使減しうとのいひ此道美をもち存せよ
 とみづる仰渡させ件の金子と賜りく感するも畏さふ一兩時退りて長刀袷の
 加印の美書とまの事立地小着落して身の暇と賜り免於是初を變知り
 ける刀自達二名の冤屈の罪の俺女督朱之次ハ所以に小俺身料らば這地小來る

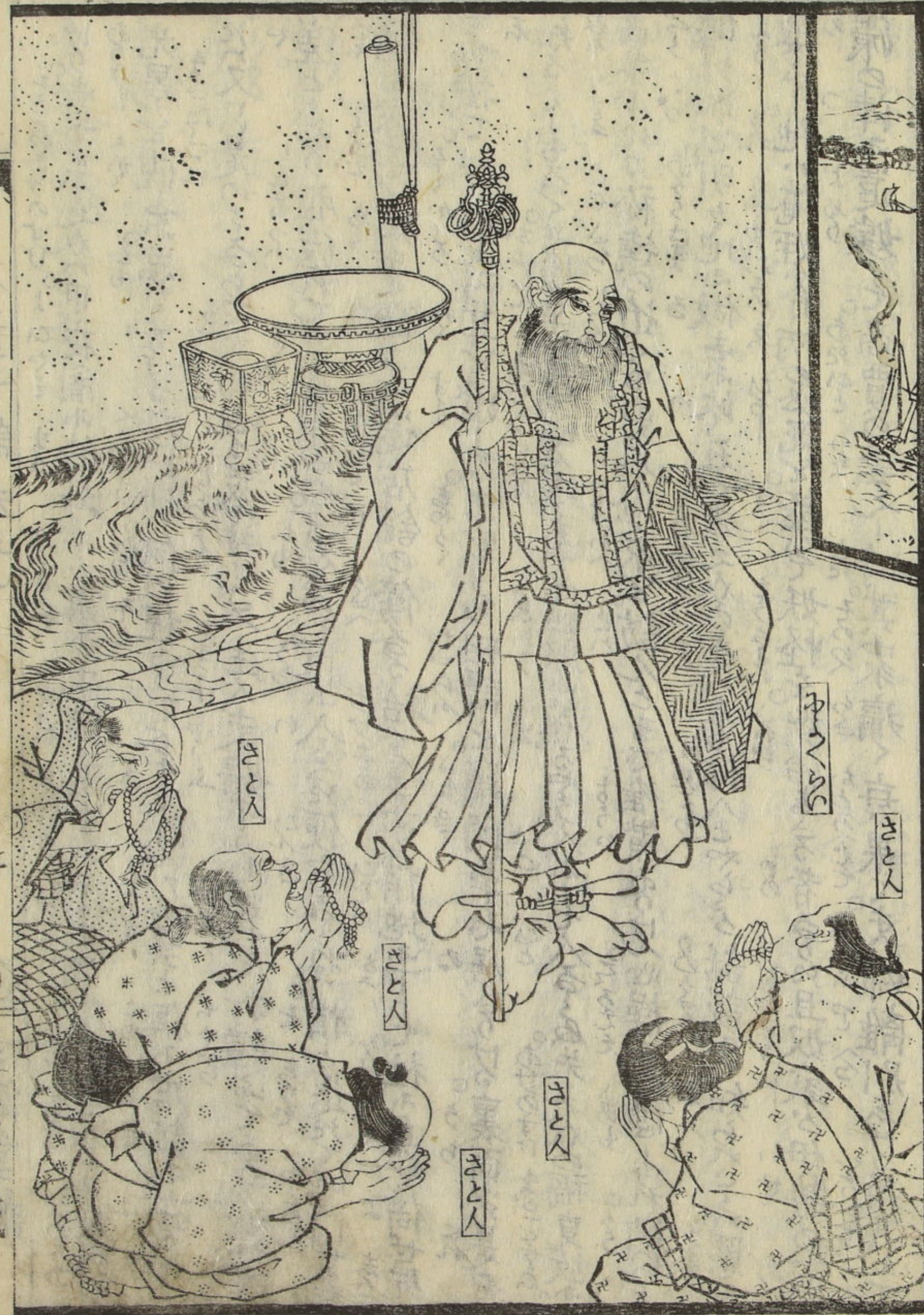
宿所と訪て勸解もせし朱之次ハ房錢の債もあらを償と大和へ還りるれや
 と思ふ心と村長刀袷小告て浪速小宿投て一兩時這身の暇と請を吊せ約轡小も
 乗りつ方僅這頭へあてつけ九四郎主ハ今朝安藝とよりかち來せしと公人の誨ふ之
 便牙かねばこそ推参去ゆりあたと告る詞の流るは流るは行も納れらる風よりも
 憑く思ふ心と熱心と心とあつ僅小少知る御身の誠心違さし一も不思議の對面俺們
 三人ハ罪鏡されて世間廣くるる小那人なる追放されて往方も知らるるあひしを心
 苦しく思ひのぞ救ふへもあらされとを九四郎推禁めて落番兼が實美を謝と
 初俺朱刀袷と家小留り故あるもて那人ハ俺隣る岸松屋と宿せんと左
 思より來りけり其岸松屋他郷へ徙りて這地小あらを做一か左思の人と約束
 る宿違ひて便るとのりふらちも置れ其隣る故とて只得俺家小留りて矧
 又那百九十五金の酒家安藝へ赴く折朱刀袷より預しとて藝系小藏置せし小錢程も多

福夏起りて件の金子を陣館へ召されて出立處と鞆問あり。故の主るれども。御身も返り賜
 さい。是切りもの工多き。俺豈今も。那人の房錢を欲せんや。比目是時の不幸也。乙共藝六
 市四摺等と一旦連累せられりとも。怨むべし。死にあらば。那人の心樹の好もあれ。死に
 俺誠心とて。權且家小留り。小藝藝や。那人追放せられて。鏝一文の盤纏も。死に救
 使者小あしき。と思ひければ。俺弟茶六とて。金五兩と贈らせんと。好せり。死に時程も
 如及。死や否と知り。又那二賊と生拘より。遂小疑獄と解け。棒に弟茶六の功を
 ぞ。又ふ一個の勇少年あり。開杜四郎成勝と喚。彼て。茶六と共。小松の五林寺小寓居
 志。御向小訪来て。奥小存り。といひ。外面瞻仰。見て。日ひも。没て。黄昏。乙共藝云。燈を
 少き。や。喃大和の姨。れ。お。死。も。送。小。猶。マ。カ。今。宵。の。這。里。小。留。ら。せ。あ。る。の。か。
 乙共藝も。共。侶。小。留。守。の。程。る。福。事。也。櫛。工。も。炊。妻。又。一。個。も。あ。ら。せ。做。り。か。然
 せる。款。待。の。儀。も。な。ど。も。先。夕。饌。と。ま。あ。せ。見。陝。く。あ。れ。と。納。戸。也。夜。と。共。小。語。り。ぬ。ね。か。と

ら。さ。と。被。敷。也。否。剛。才。求。む。路。也。物。喫。し。れ。欲。く。至。然。も。う。ち。續。く。真。夏。の
 也。瘡。の。ま。治。ら。せ。自。由。出。れ。れ。も。夕。風。の。吹。入。這。里。小。の。儘。置。か。せ。と。乙。共。藝。待
 多。げ。れ。ら。ふ。九。四。郎。諾。て。小。の。兩。個。の。轎。夫。の。背。門。小。召。容。て。酒。飲。せ。り。と。乙。共。藝。葉。の
 少。吏。也。否。他。の。浪。速。の。宿。所。返。り。今。宵。の。情。由。と。村。長。刀。袷。小。告。告。の。不。便。也。の
 下。と。い。ひ。身。と。起。り。店。頭。立。止。て。多。く。喚。も。れ。店。舗。の。働。小。轎。と。早。屋
 主。と。俵。件。の。兩。個。の。轎。奴。の。心。と。合。て。來。り。け。り。と。乙。共。藝。猶。も。近。づ。り。奴。家。の。這。里。小。所
 要。あり。一。夜。明。と。明。日。の。早。和。郎。連。の。浪。速。の。後。退。り。と。由。と。長。刀。袷。小。告。告。て。明。日。又。朝
 風。奴。家。と。迎。來。よ。か。と。詞。急。迫。く。吟。附。九。四。郎。も。勞。ひ。て。和。郎。連。大。多。不。あ。ら。ん。と
 ら。酒。菜。い。さ。げ。れ。酒。の。肴。門。小。入。と。喚。も。れ。と。乙。共。藝。轎。奴。の。少。吏。也。不。沙。量
 る。れ。欲。か。ら。飯。も。剛。才。賜。り。ぬ。卒。然。ら。阿。懐。さ。る。明。日。又。迎。小。告。告。と。告。別。さ。る
 轎。と。拾。起。り。浪。速。多。歇。店。と。投。て。退。り。け。り。當。下。九。四。郎。の。外。小。出。て。暖。簾。御。ら

推買登。相招。餅。の。ち。乗。て。升。が。儘。店。舗。の。片。隅。遠。く。合。入。れ。て。戸。を。繰。下。さ。兩。三。枚。
 都。て。困。ぬ。夏。の。夜。の。風。も。馳。走。の。一。蒸。熱。乙。藝。の。初。燈。引。提。多。碟。子。の。装。做。葛。
 の。粉。餅。の。拭。一。砂。糖。の。夏。の。霜。心。の。解。け。敷。待。態。不。前。茶。の。出。鉢。汲。更。て。何。の。行。れ。
 と。是。之。も。脚。口。取。り。と。サ。摩。る。と。落。葉。の。受。の。敷。て。あ。ら。ち。措。せ。ぬ。が。て。脚。匠。會。ふ。
 做。り。ゆ。り。這。葛。餅。子。と。賜。さ。ず。吉。野。の。近。近。俺。家。の。更。を。思。ひ。出。ら。れ。て。常。言。の。公。儀。者。ら。
 逆。旅。の。と。候。暗。む。庖。偏。の。蚊。遣。煙。の。多。く。人。を。泣。き。袖。の。露。夜。の。席。の。蕭。然。雨。談。
 時。を。寝。ま。り。の。姑。且。と。九。四。郎。の。半。く。落。葉。の。ち。向。ひ。て。前。中。も。い。ら。ぬ。が。杜。四。郎。と。朱。
 六。が。脚。身。の。上。と。少。知。り。の。い。る。上。市。赴。て。那。百。九。十。五。兩。の。金。子。の。出。処。來。歴。と。問。ひ。買。と。
 自。他。一。件。の。疑。獄。と。解。ん。為。さ。る。介。程。小。森。寺。の。新。參。事。柿。八。と。吸。做。を。奴。隸。の。故。御。上。
 市。之。と。穿。す。他。の。就。て。朱。刀。袷。の。出。処。の。虚。実。を。問。ひ。那。人。の。放。蕩。を。頼。脚。身。の。慈。善。
 德。美。も。具。知。る。と。い。ふ。俱。大。和。起。り。せ。ん。を。准。備。と。考。へ。其。夜。艾。疑。獄。と。解。く。

足。照。据。と。い。ふ。大。和。の。ま。き。做。り。け。り。及。て。脚。身。小。訪。り。縁。ある。所。以。後。あ。る。奇。之。の。小。
 落。葉。赤。い。胆。向。ふ。心。の。裏。の。思。ひ。の。ち。あ。り。て。介。の。い。え。小。品。越。ま。波。濤。飲。揮。歌。難。一。淚。の。
 答。口。公。龍。の。け。り。有。恠。る。折。々。竊。歩。ま。す。這。店。頭。へ。來。者。あ。り。是。則。別。人。を。ま。き。未。朱。
 之。眾。暗。賢。之。他。の。昔。悪。の。故。り。て。御。前。陣。館。の。雜。兵。三。名。小。追。立。ら。れ。ぬ。と。去。ら。れ。て。則。
 浪。速。の。申。明。亭。也。升。が。儘。小。追。放。さ。れ。て。雜。兵。等。の。か。り。去。り。け。り。介。程。小。朱。之。公。罪。解。
 屍。人。を。免。れ。れ。る。も。既。小。追。放。の。身。と。做。り。も。僅。小。錢。一。緡。の。盤。纏。上。ま。あ。る。と。考。へ。け。り。道。邊。
 其。里。小。合。り。て。あ。れ。ぬ。ち。ら。ま。路。傍。の。樹。下。小。立。り。て。跪。居。て。肚。裏。の。思。ひ。を。言。ふ。且。裏。中。の。俺。
 冤。屈。の。罪。も。宿。の。老。婆。乾。見。等。又。一。旦。獄。舎。小。敷。糸。れ。れ。る。も。俺。做。さ。る。薛。子。小。あ。ら。ぬ。況。や。
 他。等。の。饒。さ。れ。て。異。な。家。小。返。さ。れ。れ。俺。を。憐。愍。思。ひ。も。怨。む。死。の。あ。ら。ぬ。九。四。郎。の。
 安。井。執。事。上。り。て。い。ま。か。ら。來。む。も。あ。れ。老。婆。女。小。執。事。小。悲。と。請。ふ。と。錢。を。金。を。借。ら。ら。ぬ。と。
 尋。思。を。考。へ。路。を。見。て。執。て。返。さ。る。浪。速。を。過。り。て。住。吉。の。里。小。來。ぬ。程。小。既。小。一。日。の。暮。



真愛お下りて
 禪師 杉木の
 家小光臨せ

八丁目小見せり

五石堂の詩集
 文庫堂

けり。當下朱之次、甲夜闇小紛れた。十三屋の店頭小潜来て、困送たる戸の間に、家内の
 光景を覗き、思ひさるける九四郎の何の程より来りけん。乙藝と俱小店舗不在の奇
 たり、又只是のころ、大和なる落葉、又主人夫婦、小う対ひて、打譚ふてあり、か
 嗟と、たかり胆渡れて、思ふも、内小入るに便宜なれば、情と退れて、呼門せま
 猶も、容子と知れ、欲さ、這店舗の傍る、拾遺子と、情地下して、柱小身と、倚せ、尻
 うち、拭て、單面、あつ耳と、澄と、王客うち、相譚を、竊聞、を居りける裏面、あつ是を
 知るより、もろく、落葉の屢、嗟嘆、を九四郎は、合るやう、入りて、人なる、朱之次、の福、夏故、
 尚年少、た刀、秘達、の近くも、あつ俺家と、訪んと、まて、準備、あつ、心操、を憑、し、斯い
 暗に、恥と、明々、地小、做、ま、飲、れ、と、朱之次、の、責、め、も、柿八と、やら、話、説、ゆ、て、知、れ、て、
 要る、他、俺、姪、斧柄、の、必、死、と、極、ひ、て、妖怪、を、對、治、する、者、あり、且、奴、家、が、伊、勢、の、阿
 濃、の、津、小、遣、嫁、と、高、買、の、妻、と、時、其、家、痛、く、衰、果、て、丈、婦、離、別、を、折、其、年

僅小五歳、る、獨、女、兒、小、泣、別、と、昔、里、を、れ、大、和、を、兄、小、木、斧、柄、の、家、小、歌、り、と、在、り、
 程、斧、七、丈、婦、の、時、疫、で、共、信、小、身、故、も、遠、る、煙、の、斧、柄、の、其、比、尚、稚、多、く、稍、守
 音、長、と、成、て、好、女、婿、欲、得、と、徴、る、折、ら、朱、之、次、が、斧、柄、を、極、ひ、恩、愛、あ、つ、の、る、他、
 俺、故、の、良、人、の、後、妻、小、生、る、獨、子、を、養、ふ、新、恩、舊、縁、兩、方、深、く、も、感、ト、思、
 今、の、故、小、優、小、斧、柄、と、妻、せ、よ、ら、斧、柄、の、遂、小、有、身、て、五、月、小、做、一、今、春、の、春、朱、之、次、東
 西、買、せ、と、京、へ、遣、一、たり、ける、久、く、る、冬、から、來、信、小、あ、つ、と、斧、柄、を、
 苦、小、病、故、也、と、臨、月、小、做、ら、る、小、猛、可、小、産、の、紐、解、り、て、八、月、子、と、生、ら、其、生、一、と、
 男、兒、也、然、も、恙、い、る、けれ、も、只、痛、い、斧、柄、の、命、其、夜、急、瘧、を、身、故、り、年
 來、守、り、音、る、煙、小、あ、つ、と、実、子、小、異、る、を、思、老、が、身、の、頼、む、樹、下、小、雨、漏、り、の、袖、濡
 ま、真、室、の、真、愛、小、堪、ね、共、侶、小、死、を、と、ち、數、日、一、日、二、日、と、辨、よ、り、安、葬、も、甘、々
 あ、り、ける、程、小、思、ひ、ける、如、來、様、の、六、田、の、尊、と、出、る、と、這、頭、と、卷、縁、を、束、と、と、

人多く俺門の立集ふと云ふ。然情惑ひ走りぬ。禪師様の御法衣の袖に携り
 斧柄が為小廻向と願ひまう。久姑且錫と駐り。俺家のまよりぬ。斧柄が
 柄小廻向あり。且奴家の論のやう。約莫生と。活る物那生あれ。這死の喪され。何ぞ
 りん。何ぞ哀。何ぞ歎。俺今書置の法語あり。善女謹で聴聞せ。汝を
 死にける。女児も其心貞實也。悪心悪行。不幸の如く。僕前世の
 業報の。今この悪報あり。死に清果と。死のわらう。又汝の女婿末朱之介の如
 其原是邪物の後の身。縁小觸事小感。斧柄が必死と極ひ。是は薛子の寓る所
 其極ひ。極小ある。是と殺と然ると。汝は疎忽る。初對面。賢者の約
 束。悔も。風。斧柄を妻せ。他が邪淫小妻。主君の財貨を喪せ。借得
 借得。さ。一。惑ひの。救ふ。小。仗。欲。て。邪物の。悪。肥。卒。其。益。を。今。を
 知ら。然。朱。之。以。小。齋。一。百。金。空。花。之。生。れ。小。兒。も。孫。る。也。後。悟。る。や。わ。ん。

然と。世と果敢ると。女僧お做ら。欲。も。這家の。之。西。騎。お。做。り。て。今。の。本。意。と
 遂。か。り。好。も。可。れ。の。自。然。小。任。て。哀。じ。く。の。歎。く。只。愛。惜。の。念。と。断。て。斧。柄。が
 こと。と。な。れ。と。教。化。一。入。叮。寧。也。の。も。告。さ。る。俺。家。小。あ。り。と。見。る。如。く。知。せ。ぬ。善
 智識の法語小敬焉。且畏て合掌。多。罪。深。く。迷。の。雲。も。御。教。化。小。よ。り。て
 乘。舟。り。然。る。也。も。朱。之。介。小。齋。一。百。金。二。裏。衣。の。斧。柄。が。厄。と。救。れ。り。報。恩。の。其。一。種。を
 也。他。又。遊。興。淫。樂。小。使。失。い。れ。も。惜。ひ。不。足。ら。ぬ。れ。も。他。が。東。の。主。君。よ。り。仰。と。乘。て。の
 東。小。ける。唐。布。百。反。と。沙。金。五。百。兩。と。之。の。開。禪。師。小。を。ま。る。造。佛。の。為。り。と。他。淫
 樂。小。使。捨。て。残。る。の。沙。金。三。十。包。留。め。俺。家。小。在。り。他。倘。那。儘。小。這。地。へ。か。て。做。り。せ。ぬ
 件。の。沙。金。と。遣。は。る。其。折。衷。禪。師。様。の。受。さ。せ。ぬ。と。願。へ。頭。と。う。ち。掉。て。造。佛。の
 是。有。漏。の。縁。扇。谷。の。情。願。と。許。さ。り。ん。這。故。を。れ。も。汝。が。深。信。切。義。賞。を。受。け。ぬ。れ。は
 其。沙。金。の。柄。小。乘。て。斧。柄。が。亡。骸。と。俱。小。瘞。め。其。金。後。小。世。見。れて。為。小。佛。像。と。作。る。者

わらん然ハ扇谷朝貞の夙願を果さず足るべ。必る疑ひそと論ら料紙硯と求て則
 斧柄が法名を梅雪信女と命トめし件の沙金と出させて財囊の隨ハ柩の上へ紐りて
 結付させ又教ぬる。俺思ふ旨あれは這亡骸ハ六田川の邊迄拾けさせ俺庵近く
 葬るべ。是も縁あるところか。とのひ々四下を見かろぬ。里の老弱百十數名。禪師ハ湯御
 ある者。俱ハ這坐席へ稠入りて圍繞して在り。禪師列々看且て衆人目今俺急
 這柩と拾け出せと六田川の邊迄お葬れ疾々せよとのそがぬ。里人歎び羨むる者や。く
 喘雄の杜校五六名。合肩入れて拾け出せる。柩ハ從ふ里の老弱皆後れとて外ハ禪
 師ハ錫杖衝鳴して是を導きぬけり。憶りるり。野邊送ハ奴家ハゆらん一家兒を
 炊婦ハ鍼妾も且呆れ且畏き。門方ハ立て目送る程ハ數珠の七拜むも。誠
 不測の佛縁や哉。如來様と信する者も腹黒ハ母ハ十遍百遍誦るとも拜面と饒
 去ぬる。豫少らるる。斧柄が不幸死亡の折招ざる。不出す。取合ハ里の衆

人ハ柩を昇せおと去りて六田川の上る。御庵の傍ハ安葬せぬ。ハ過せありけ。佛
 福也。歎念の中の歎ひハ最淡々。女子の浅智ハ量知。存りもる。活菩薩の教
 化ハ任せて形貌ハ有髮友の優婆姨。も寧煩悩の絆を断て心と安養極樂淨
 土ハ置。何を措ざらと思ひ復た。歎念を禁て。今ハ斧柄が像見る。赤子の為ハ乳と
 討る。小片山里ハ巫の所用ハ姉母と徴め。易かき。折々。新町多。敗鍊經紀。釘六の老婆
 也。二十日ハ已前ハ子を生る。其赤子ハ亡る。て懷寂。哀の。乳房盈て。堪ざら
 離鶴を索む。と。先當分の。凌の。為ハ斧柄が赤子の乳名と玉五郎と命。是を
 釘六許遣。其老婆ハ字育ま。聊心ハ安堵。是より。後梅雪信女の。為ハ香を
 焼花と。賻け。看經。日を送る程。三十七日。當日浪速の陣館。より。召
 ろと。身。敬。喪服。脱て。這地。來。夏。顛。末。長。々。飽。れ。や。ん
 要。身。上。話。説。ふ。こ。と。の。果。て。歎。息。と。九。四。郎。乙。執。共。侶。小。哀。人。の。家。

艱と今も慰難て屢嗟嘆あつける。當下落葉の項お概する。紐と延き、財囊とを
 きて主人夫婦示しと父中前も告する。この箇金二百兩の朱之众の爲に調達し、
 他お渡與あり開か内中と五兩致他に使用の。残る二百九十五金、這財囊の中あり。今日
 陣館より賜りて故へ復し金子する。嬉しくも思ふ。お心似む。知るはる
 ぐら朱之众が醸しる禍鬼お拘らひてお誓刀自三乾見連え疑獄お敷れり。お御
 活業三禁められ。東西の没女の多りけ。然ると朱之众と憎ともせ。他お盤纏と取
 せと賢弟とて趕せ。九四郎主の任使の有か。死まで忝は此の報をせ。おあ
 這地へ来る甲非文へ。願ふ御夫婦這金子と受納て足る。お費お充せ。おあか
 財囊と合抗て。渡與す。欲すと九四郎も。おたお觸む。推戻し。且おあ開か
 けも。其金受て何せん。御身を朱刀袷。お幾層の鈔を没れる。お那人都て。夏をゆ。遂
 び開か。お今愛の不幸の没。おあ。お其儘。おか。お佛事。お用。おの。お

又絶て黙然と開か程。お乙お誓の涙雨の如く。同し浮世の空宿り。夕立。天おあ。ね。お
 曇や胸お思ふ。おの。おま。お悲。おと。お歎。おさ。お濡。お袖。お絞。おあ。お身。お倚。おせ。お落
 葉。お并。お拵。お下。お又。お拵。お下。おと。お喃。お御。お懷。お様。お今。お宣。おせ。お緯。おの。お趣。お俺。お身。お思。おひ。お合。おま。おあ。お御
 身の故の對偶の伊勢の阿濃る。町人お木偶。お主と宣ひ。其屋號。お末。お松。おあ。お
 柚の小夏。お奴。お家。お小。お侍。おと。お名。お告。おる。お落。お葉。おの。お故。お馬。おお。お頭。おを。お拾。おけ。お左。お見。お右。お見。お原。お来
 其方。お俺。お女。お兒。お乙。お柚。お一。お欬。おあ。おれ。おも。お他。お九。お歳。おり。お時。お寃。お家。おの。お為。お千。お俣。おの。お谷。お投。お落
 され。おと。お世。お存。お命。おあ。おべ。おや。おあ。おる。おか。おと。お訝。おれ。お九。お四。お郎。お然。おと。お膝。おと。お找。おめ。お
 其疑。おの。お理。おの。お俺。お身。お總。お角。おり。お比。お二。お親。おお。おと。おの。お言。お言。おく。おも。お詳。お告。おて。お御。お身。お
 惑。おひ。お鮮。おん。お抑。お俺。お父。おへ。おり。お峯。お張。お九。お藏。お中。お原。お通。お世。お原。お是。お信。お濃。おの。お一。お諸。お侯。お木。お曾。お氏。お家
 臣。おる。お壯。お年。おの時。お故。おあり。おて。お致。お仕。おと。お宅。お眷。おと。お推。お乃。お浪。お速。お程。おあ。おと。お居。おあ。おの。お兵。お法。お武
 藝。おと。お人。お教。おて。お左。お右。おと。おあり。おける。お程。お永。お正。お九。お年。お八。お月。お時。お候。お舊。お里。お要。お事。おあり。お一。お僕。お



五百重子川

〇

十二

文楽

九四并

〇



朱之介

三十八

文楽

悲泣の副り
て落葉財
囊を擲る

〇

將て山峯張の岐路路小赴言ける其比榻鍼巖中折々山賊の禍ありと告ぐる其武
 藝不支足る元自謹慎其身と愛する故敢危に近つ其往折中還る事も件の高嶺を
 上下せし案内知らざる上され樵夫の通ふと山脚路分入りて荆棘を踏啓溪水を渉
 辛くしかりなる程日既傾れ比前面より來る一個の僧あり頭を檜笠を戴
 きて背に駝做を網代の發る錫杖と携ふる其形容飄々然とて面色も亦凡なるを鷲の
 細路相譲んとて過ると俟程件の僧歩と停りて俺父向ひて云々。這里より西なる
 溪松の邊に賊難危窮の童女あり他殿親子過世ありて必媳お作る者ぞ今勉て那
 死を救ふ後不幸ヨリかん是を用ひて死を起しねと説示し懐より食を貼の藥を與て
 答と俟ど飄然とて過り思ひするにこれ俺父の奇異の思ひと做との然りとて
 疑むるはと一所有餘ふと見れば老る跋松の溪水の上指し出る木杖の夾れて死する
 如く一個の童女あり是るべと思ふを伴當とて倍不照の濡るを敷き居る近つて

推辭めども其も慎みおのや。如如束様ののりも這里も人のひ者あり其活佛の引接と
 兼ありし御息女様の孝順貞美と御身の慈善の故ふをあらむら其及ぶる
 ありぬも九四郎が仕使する人お東西と施しは然るは故か人さへる東西と受は
 りぬゆり開と云々と強めぬ憚りながら人を知らぬ故を信りぬと辯ふと落葉は推
 復してその其該で信れぬも目今し一情由るに枉て受させぬと又せ磨るを意も
 ぬ夫婦齊一固辭の遺る返り果しむけれ落葉の只得件の財囊を開き健闘し
 図に憶むる感涙と袖を握りて又いふ思ふ増て誠ある御夫婦の方正を負て本
 意をくゆるか斯ら心裏恥し死不同語おはれども這金子を有餘遊財あるま
 か。朱之入をせお出さす。思ふるの内百兩の他借しと他不遊與あり。その亦空お做
 りく切て御身御夫婦と舍弟達二柱の恩美お報ひまらんと思ふるの寸志おゆれ
 開も听れぬと争何へせ。知せぬらぬとるが。奴家が伊勢の津小在り。時故の良人本偶

其の家も子も忘るまで色不惑ひて錢財湯水の如く使捨る其後妻小生
 甘との朱之由父不似て公ひるを悲しけれ是れ是れ就ても思ひぬる奴家が實の單兒
 乙袖僅小五歳の時生別と二十餘有餘絶て信るり一近曾朱之公話説を創
 めて夢知る他が薄命名と小夏と歎喚更りて継母のふ養れ華の浴湯も身の
 杪枯の果敢る世渡りあて在り一親の京師住托は乙袖九歳より一秋男女西個
 の子と携て夫婦鎌倉赴道中捐鐵山巔と踏る折山豪小撞見て木偶主人命
 喪ひ乙袖の小夏の谷底へ投棄されて陽炎の命空く做りはと夢中折胸淡れて哀
 三涯のるるける遮莫其折朱之公の年二の秋は夏之光景と覚ねる年園て母親
 阿夏の夜話小夏を告られしが実るべし其哀悼の袖濡てまど乾るぬ谷柄を命
 短く子との遺して先ちたれば千萬の金ありとも何かせん寄処は遠老の身と慰ぬ
 せで御夫婦達情強やとむる不憶も財囊と投捨てよと泣く伏沈ぬ九四郎の心を

見れ那身小瘳いりしと推揚て抱合る舊の処へ退て草と折布に臥あせ先四下と
 見く其頭小寛家のあると又其童女とよく見る年八九ありあるべうらん敗る袴の
 夾衣と壺折て藍染る仁田山紬の帯は申時多るを端短小結做して夫臆被足
 中脚絆小形の草鞋を穿し旅も賤女多しと猜せらる形貌を斯實れは容
 顔醜かられ痛すゆの一入を其脈と診絶方如く有小似り射て件の散薬官
 中へ揮入れは溪水と掬て林下あり主僕カと勅せて勤る程事件の童女ハ稍息出で死
 るととぬれぬものいふまで至ね只得伴當搭駝せ其夜歇店小就てを割て可知
 る他が素生と名と小夏と喚れる事云云とあるの父も亦継母も稚兄弟も山家小屠ら
 して命とを預りけん恙あらずや知らねども外親族とをふる真愛身と憐愍心ひ後と
 泣口説れて俺父のよく捨かと思ひあの尚見る由あらん鉄と他が護身書表を檢まぬ
 臍帯あれも父母の名と寫さむの餘り皇大神宮の離太麻と除厄弘法大師の

御影ありあま至て俺父の跡然として思ふや。原来那の僧の必大師の化現を伊勢の御
 神の擁護もあるべし。を疑は不仁不似なり。と深念とあり。開が儘の童子は浪速の御
 了て俺母小告りか母も慈善の本性なれば相憐て乙執と名づけて。習経刺何れとる教
 道守に慈念慈心恩念の俺女兄なり。億禄やも異るに徳而二親世と去て後世言
 其の儘乙執と妻あつたことと一五十一と説示せば乙執は僅小涙を歌め。肌
 唐曾護の裏と開て合ふと臍帯の包紙と拵伸してや。喃奶々這紙小永正元年
 甲子の冬十二月三日の誕生乙袖が臍帯とある幾文字の御身の事迹で伝ふ。相別
 去の五歳の春まで生平の切さると咽一の。寶の御名も顔色もいふありけん。皆
 況御身の親伊勢大和秋知され。年七八の做。比并と答々小向かと思ひあり
 比実と告ま。汝が寶の母親の相別。比身故り。比并と答々小向かと思ひあり。哀
 思ひまや父の身を刺損鍼の山頼と死天の山豪小亡れぬ。知らて過せ。十九年環會

日のあり秋と空憑と新推る録倉も人われ。言修遣申斐る。其存亡の反
 覆也。世ふる人と思ひぬ。奶々の今も恙なく。過世吉野の程遠く。上市の里と必
 多。料らるる告會も。這致し不就て亦最淺す。比這里小宿。米之の異
 母も。俺弟珠之。父に。送る。知ら。知り。俱小獄舎小敷糸れ。身免れて。かり。來り
 他の。單。追放の。住方。も。知ら。る。け。現小善惡の報。を。思へ。不便。か。と。公。小落
 葉の。泉。微。を。涙。小聲。の。口。龍。り。現。小理。の。俺。亦。久。後。憑。く。思。ひ。る。芥。柄。の。反。て。短。命
 也。死。せ。り。と。其。方。の。異。る。く。環。會。け。致。び。現。小。夢。の。幻。致。量。知。れ。ぬ。生。死。の。海。と。山。迹。小
 老樹の櫻。枯る。枝。小。開。く。花。の。一。重。八。重。九。歳。の。秋。も。受。一。屋。主。の。再。生。の。恩。と。忘。れ。ぬ。と。
 慰。め。慰。め。ら。れ。て。送。る。と。合。會。れ。上。直。下。高。對。の。背。る。と。今。を。心。憑。く。目。鼻。親。は。黒。子。ま。で。
 現。小。争。れ。ぬ。親。子。の。照。據。鬼。神。不。測。の。再。會。と。俱。小。致。が。九。四。郎。も。只。管。感。嘆。あ。る。け。り。

新局玉石童子訓卷之三上冊 終



新局玉石童子訓 淨書畫工刷人目次

出像畫工

一陽齋後豐國



淨書筆畔

谷 金 川

澤 正次代稿

離彪新話 中本 三卷

莊蝶翁再遊外記

この海の翁の舊作山中麻、及從地繪と
離彪翁せらるる心奥ある冊子、初編近刻
羨想共清胡蝶物語の拾遺、二、三巻、前以て
致らざる滑稽笑余奇書、初編十冊、内五冊近刻

開卷驚奇俠客傳第五集十冊近刻

この編更小玉石童子訓と名づける玉石の善悪邪
正の由る素より架空の寓言と又その童叟婦女
子より續味あると死の覺えをとりて獎善の域に
入る禪益ありと云ふるをとりて童子訓といふ
全編五卷分巻十冊、本刊刻成所の五冊、發
板下帙五冊も續いて刊行をへると四方の君子
全編皆成の折と俟たう、 文溪堂敬白

○家傳神女湯 一包代百銅
○精制奇應丸 大包中包小包共ふらみ交わぬ
最上の某種をとりて下連ふ
製法は、此の如くたりたりは、
○熊胆黑九子 右同扱、随分下連ふ、賣弘の
一包代五十
○婦人魚の妙薬 右小あり、一包代六十四文
製法藥 四谷隱士 瀧澤氏
弘所江戸元服田中塔南側中程 たり沢氏

繡像復讐山石見英雄錄

全部 五十冊

南海 玉藻 主人 編輯

浪花 一葉 斎川 芳梅 画

○初編 系師人作 七冊 土藻主人詞著 三編 泉陽子嗣著 第四輯以下作者一家
永録天正の頃流石名嶋の勇士若見重太郎橋持李が生さちあり武者修仍
せ一冊の武功大蛇の害を除去老鯉の妖を殺め一勇威を振れ後子天の橋立あり
廣瀬成源大川市三人の大敵を殺して父兄の怨恨を晴し終小室町殿に奉仕して任官
し珍水玉水正は後世に傳ふるを同じく聖聖高が女邪淫婦岩瀑孝女新月水正
給い黨の五雄と稱する勇士の列傳靈猿忠魚の怪談五輯あり八益入佳境新話あり

南久寶寺川心齋橋水入

浪花書肆

伊丹屋善兵衛板

